

児童の行動の変化の記録の中でも男女がしだいに協力し合い、助け合っ
ていくようすが観察されているので、
ほとんど取り上げる必要はないと思
われる。

② 班の人数
学校では、比較的閉鎖的な学級を
中心とした活動が多いように見受け
られるが、少年自然の家での集団宿
泊指導で、新しい交友関係、親近感、
連帯性のかん養をねらうためには、
班の編成について、学年内の学級の
わくをばらして、更に男女混合の班
を作ることが望ましいと考えられる。

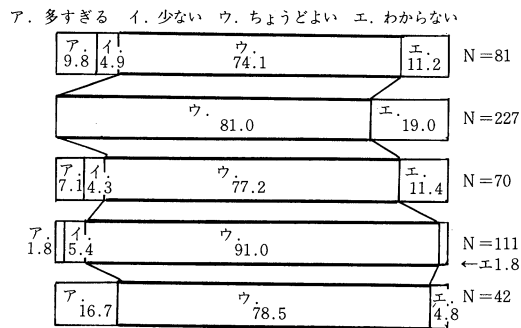
② 班の人数
中学年では六〜八人、高学年では
八〜十人で班を編成することが、集
団宿泊指導の効果よりあげ得るの
ではないかという仮定に立って、実
施プログラムを編成し、集団宿泊指
導を行ってきた。

児童は、この班編成による指導の
あと、事後調査で班の人数について
次のように回答している。

下の図の反応では、どの学年にお
いても七十%以上の児童が、自分の
班の人数について「ちょうどよい」
と満足した回答をしている。このこ
とは、すでに述べた集団宿泊指導期
間中の児童の変化——成果と見ても
よいと思うが——があり、児童もそ
れに満足していることから、この班
編成は適切であったと思われる。
班の編成において班員の数は学年
に応じて、中学年では六〜八名、高

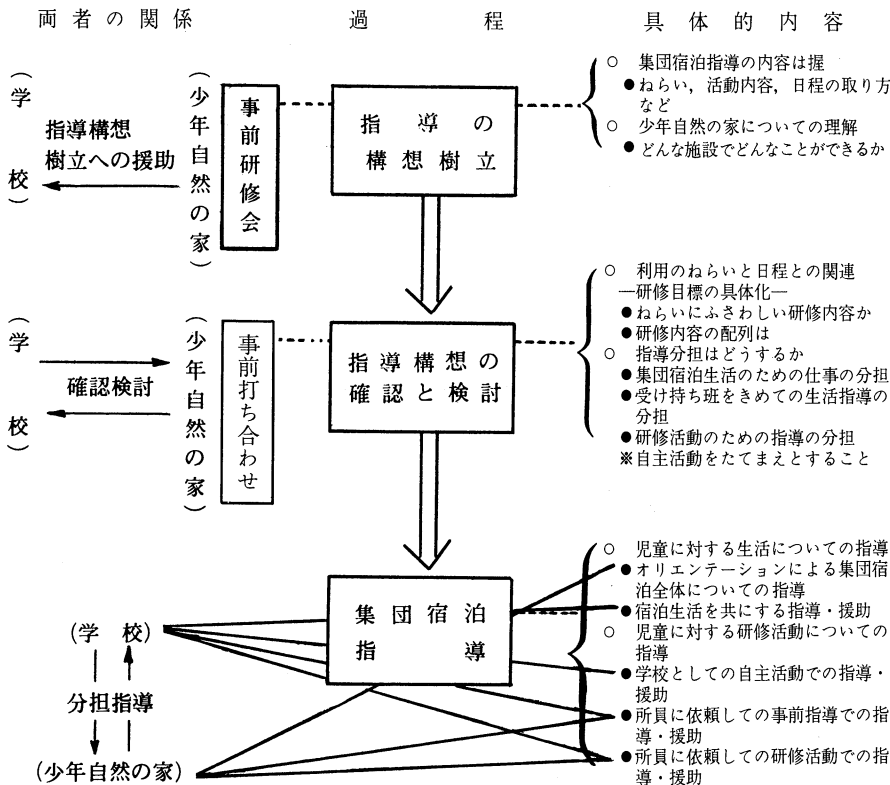
「班の人数についての児童の反応—事後調査—」(%)

宿泊期間	学年	班の人数
3泊4日	5	7~8
	6	8~9
2泊3日	5	7~8
	4	8~9
	3	7~8



① 指導分担任の位置づけ
第一年度の研究を通して、「集団
宿泊指導実施までの過程——引率指
導者とは、どうあればよいか。」
(4) 学年では八〜十名、ならして八名前後
で編成することが望ましいと考える。
集団宿泊指導における、引率指導
者と少年自然の家職員とのかわり

「指導分担任関係図」



指導者と職員の協力のあり方——入
所申し込みから退所までの過程で、
どのような視点に立って協力し合う
か、その位置を明らかにした。更に
事前研修会、事前打ち合わせを通し
てプログラムが編成され、そのプロ
グラムの中でお互いに分担任し合っ
て指導して行く。その指導の分担任が明
らかにされた。

② 集団宿泊指導実施上の役割分担任
の位置づけ
①の「指導分担任の位置づけ」の
ところで、集団宿泊指導を実施する
際の児童に対する指導を大きく二つ
に分類した。